

山椒は小粒でも……

Vol.68

あれ、いくつとききやった？



♪こんにちは、こんにちは、西の国から……1970年のこんにちは……

言わずと知れた1970年(昭和45年)の日本万国博覧会(大阪万博)のテーマソングです。複数歌手の競作としてレコードが発売されましたが、何と言つても三波春夫さんの一人勝ちでした。

岡本太郎さんが制作した太陽の塔は、折々に関連展示などが催されていると思いますが、特にこのごろよく目にします。月の石の展示には4時間以上の長蛇の列。私は並ぶより数を多く回りたい方なので、目玉の展示には目もくれず、なるべく並ばなくて済む中小のパビリオンに足を運びました。

万博のテーマは「人類の進歩と調和」。自動車館では、縦横6本ずつの碁盤目の上を20台ほどの自動車がうじゃうじゃと動いていて、それらが衝突することもなく目的地へたどり着く様子が、未来の交通像と



して表現されていたのを思い出します。まさに今、世間を賑わせている自動運転の先駆けのようなものだったんですね。

ほかには迷子ワッペンというものを利用しました。保護者の持つナンバー付の台紙から同じナンバーが付いたシールをはがして子どもの服やかばんに付け、迷子になったときの検索に役立つようにするものです。今の時代でいうところの認知症のかたの持ち物にGPS機器を付けて見守るのにながっている気がしますね。

私の子どものころの思い出を書き連ねてしまいました。例えば1970年、あの時、自分は何歳だったか、みなさんは



すぐに答えられますか？その目安になる出来事はありませんか？私にとってその目安の一つが、1970年なのです。それは、小学校6年生のときに修学旅行で大阪万博へ行ったからです。1970年は11歳でした。

また、人生の節目としては、1999年(平成11年)です。青年会議所(JC)を卒業して市議会議員に立候補した年で、1999年は40歳でした。さらに、東日本大震災のあった2011年(平成23年)は52歳。県議会議員に立候補した年です。

さあ、次の万博は2025年(令和7年)の大阪万博です。2025年は私は66歳です。伊勢志摩へたくさんのお客さんに来てもらえるように、そこでどんなPRをしようか、作戦会議中です。みなさんにとって次の大阪万博は何歳の頃の思い出になりますか？



Vol.222

市民課人権・市民交流係 ☎ 1126

身近にある戦争遺跡

三島由紀夫の小説「潮騒」に登場する、神島の監的哨跡。どこまでも広がる空と水平線が美しいこの場所ですが、もとは軍事目的の施設でした。

配備されていたのです。昭和20年、第二次世界大戦終戦を迎え、試射場がなくなるとともに、神島監的哨もその役目を終えました。現在は絶景を望める監的哨跡として、観光客を出迎えています。また、菅島にも監的哨跡が残されています。

監的哨とは、爆撃や射撃の着弾を確認するための施設のことです。神島監的哨は昭和4年(1929年)に旧陸軍の軍事施設として建てられました。愛知県の伊良湖岬先端に旧陸軍の技術研究所が設けられ、そこから神島方面へ向け、大砲の実射試験が行われていました。神島監的哨では、伊良湖から発射された砲弾の着弾点を確認しており、その結果は大砲や弾薬の研究、効力実験、弾道の研究へとつながっていきました。研究開発された大砲や砲弾は伊良湖射場で試験審査を受けた後、実戦へと

つながって

その他の戦争遺跡として、神島灯台北側の官舎付近の斜面には、小規模な防空壕が掘削された跡があります。また、第二次世界大戦末期には本土決戦を想定し、海軍の特攻基地が志摩半島に整備されました。安楽島地区の加布良古岬には海軍の特攻基地があり、小型特攻ボート「震洋」が配備されました。「震洋」は小型のペニヤ板製モーターボートに250キロの爆薬を搭載し、敵艦に体当たり攻撃をするというもので、1945年のフィリピン攻防戦や沖縄戦で実戦投入されました。加布良古基地に配備された「震洋」は出撃しないまま終戦を迎えています。

普段なにげなく訪れている場所の傍らに、戦争遺跡が存在しています。戦争遺跡を通して、平和について考えてみませんか。